付属語(1)

助詞

付属語のうち、活用がないものを**助詞**という。助詞は自立語の後に付いて、語句と語句の関係を示したり、意味を付け加えたりする。

①**格助詞**…主に体言に付いて、語句と語句との関係を示す。
「が・を・に・と・へ・で・から・より・の・や」の10種類。
(例) 主語を作る……鳥が飛ぶ。(主体)
連用修飾語を作る…本を読む。(対象)・先生に話す。(相手)
学校から帰る。(起点)
連体修飾語を作る…私の本。(所有)
並立の関係を作る…山や川。(列挙)

②**副助詞**…さまざまな語句に付いて、意味を添える。
「は・も・こそ・まで・でも・さえ・すら・だけ・のみ・しか・くらい(ぐらい)・ばかり・ほど・など・とか・なり・やら・か・ずつ」など。
(例) ネコは哺乳類です。(題目) 私も行きます。(同類)

③**接続助詞**…主に用言や助動詞に付いて、前後をつなぐ。
「て(で)・と・ば・から・ので・が・けれど・のに・ても(でも)・ながら・つつ・なり・し・たり」など。
(例) 転んで、けがをした。(原因) 走っている。(補助の関係)

④**終助詞**…文や文節の終わりに付いて、話し手や書き手の気持ち、態度を表す。
「か・の・な・よ・ぞ・ぜ・さ・な(なあ)・ね(ねえ)」など。
(例) これは何ですか。(疑問) 走るな。(禁止)

※格助詞「が」と副助詞「は」の違い
・「が」の伝えたい内容は前。「は」の伝えたい内容は後。
彼が山田さんです。 彼は山田さんです。
・「は」は文全体の題目「……について言えば」を表す。
妹が帰ると遊びに行った。(遊びに行ったのはだれかわからない。)
妹は帰ると遊びに行った。(帰ったのも遊びに行ったのも妹。)
・「は」は、他のものと対比的に述べることがある。
リンゴが食べたい。
リンゴは食べたい。(リンゴ以外は食べたくない。)

助詞の用法

助詞にはさまざまな用法があり、同じ語でも種類が異なることがある。
(例)「から」
・格助詞 友達から聞く。
・接続助詞 暑いから休む。(原因・理由) ＝暑い。だから休む。
また、同じ語、同じ種類の助詞でも、意味が異なることも多い。
(例)「の」
・連体修飾語を表す 私の本。
・主語を表す。 雪の降る日。＝雪が降る日。
※「が」に言い換えられる。
・体言の代用。 これは私のだ。＝これは私のものだ。
※「〜のもの・こと」に言い換えられる。

確認テスト

(1) 次の——線部が、格助詞ならア、副助詞ならイで答えなさい。

① 花は咲く。［　］
② 花が咲く。［　］
③ 水を飲む。［　］
④ 水だけ飲む。［　］
⑤ 駅へ行く。［　］
⑥ 駅へも行く。［　］

(2) 次の——線部の接続助詞の働きをそれぞれア～エから選びなさい。

① 走れば間に合うよ。［　］
② 走ったので間に合った。［　］
③ 走りつつ景色を眺めた。［　］
④ 走ったのに間に合わなかった。［　］

ア 原因・理由　イ 仮定の条件　ウ 逆接　エ 同時

(3) 次の——線部の終助詞の働きをそれぞれア～エから選びなさい。

① いつ終わるの。［　］
② 一緒に帰ろうよ。［　］
③ もうわかったね。［　］
④ 何も言うな。［　］

ア 疑問（質問）　イ 禁止　ウ 勧誘　エ 念押し

(4) 次の——線部が、格助詞ならア、接続助詞ならイで答えなさい。

① あれが、私の家です。［　］
② 押したが、開かない。［　］
③ 冬になると、北風が吹く。［　］
④ 雨と風が激しい。［　］

(5) 次の——線部の助詞の働きをそれぞれア～ウから選びなさい。

① 友達と話した。［　］
② 「いいえ。」と答える。［　］
③ スズメとカラス。［　］

ア 列挙　イ 相手　ウ 引用

(6) 次の——線部の助詞の働きをそれぞれア～ウから選びなさい。

① 本を読むのは楽しい。［　］
② 木の苗を植える。［　］
③ いちょうの散る並木道。［　］

ア 連体修飾語を表す。
イ 主語を表す。
ウ 「～もの・こと」という意味を表す。